授業方法について独自に工夫していること　【創造科学系】
板書を極力避け、パワーポントを利用し授業を進めた。 受講者とのコミュニケーションを重視し、適宜発問した。 原理の理解に役立てるために、簡単な教具を用いた説明に努めた。 グループ活動の時間を設けて学び合うことで理解しやすいように努めた。
グループによる作業等の時間を設けて学び合わせて理解しやすいように努めた。 パワーポントを利用し授業を進めた。 受講者とのコミュニケーションを重視し、適宜発問した。
普段デザインに対して漠然としたイメージしか持っていない学生が、デザインに対して興味を抱けるような身近なテーマと、挑戦したくなるような課題設定をしている。
「日本・中国の絵画と理論」をテーマに、前近代の中国と日本の絵画と各時代に著された画論を対照させて、現代とは異なる多様な絵画観の下に制作され、鑑賞されてきたことが理解できることを目指して講義した。そのために、パワーポイントで各時代の絵画作品を紹介するとともに画論の読み下しや現代語訳をプリントにして配布した。画論のプリントは使用する前の週に配布して予習を促した。また、授業を集中して聞き内容を理解するよう、毎時間の終わりに講義内容をまとめ疑問点を質問する小レポートを課し、質問事項は次の時間に回答した。
本授業は、ものづくりに関する内容を扱う授業でした。受講生の多くが、これまで受けてきた図画工作科や美術科の授業の中で作品を制作する際に、非常に悩んだり大変苦しんだりした経験が少ないと考えました。そこで本授業では、作品を作る中で、失敗を数多く経験したり試行錯誤を繰り返したりしなければならない状況を作るとともに、非常に悩んだり大変苦しんだりした末に作品がやっと完成するという過程を盛り込みました。本授業では、この点が重要であると考えました。学生たちは、「この授業では作品を作るのにとても悩んで難しかったけれど、苦しんで作った分、作品が完成してとても嬉しかった。」「最初に思ってもみなかった作品を作ることができた。」との言葉や反応がありました。この点で、ものづくりに関する達成感や満足度が高かったのではないかと思います。またできるだけ一人ひとりと会話をするように心掛けました。
できるだけ、グループ内で相談する時間を作るように心がけました。
毎回，授業内容に関連したテーマを提示し，受講者に考えさせている。
学生の性格、技術や体力レベルに合ったスポーツ実技を実施するために、私自身が積極的に参加し、対戦を通じて学生1人1人とコミュニケーションが取れるよう心がけている。授業の流れとしては、テニス、卓球ともに授業の1/3の時間をラリーなどの技術練習に、残りの時間をゲーム中心の実践練習を行った。学生自身の技術レベルが上がれば上がるほど、競技の面白さ、難しさが体験できるよう意識している。
最終的な決定は教員が行うものの、学生たちの意見をなるべく取り入れ自分たちも授業運営に関わっているという意識を持たせるようにした。
学生達が主体的に選択、判断、行動できるよう、すべてを説明するのではなく、必要最低限の説明にとどめるよう心掛けた。学生を見守り、各個人の創意工夫、学生間のコミュニケーションによって、解決できそうにない様子であれば補足説明等を適宜行うようにした。
「ジェンダー」を切り口にして、多様性を尊重した共生のあり方について考えることをねらいにした授業である。基本的概念や論点を理解しつつ、学生自身が多様な意見、考え方に出会うことで、テーマに関する自分なりの見解を持つことを重視している。今期の授業では、学生同士の意見交換の時間を増やし、LGBTの支援団体のゲスト講義を取り入れ、学生が人と出会いながら考える方法の工夫を行った。

7人の教員によるオムニバス形式の授業である。オムニバスは往々にして「ばらばら」になりがちであるが、それを回避するために、年に一度ミーティングをもち、メールでも意見交換をしながら授業を組み立てている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。　【創造科学系】
小レポート，授業参加度（合わせて50%），および筆記試験（50%）で総合評価した。
課題に対する回答、取り組み。出席率。
成績は毎時間提出する小レポートと学期末の試験で結果を出した。小レポートでは毎時間の講義に対する意欲と理解度を測り、試験では半期の授業全般への理解度を見た。全ての小レポートと試験結果を総合し、それぞれの程度に応じた成績を出した。
本授業では、5つの題材を設定しました。その一つ一つについて、受講生全員の作品の写真を撮り、その後教員側でプリントをし、その写真を毎回A4サイズのレポート1枚に貼って提出して頂くようにしました。またこのレポートでは、作品を制作する過程を細かく記録するように指示をし、どれだけどのように失敗したり試行錯誤したりしたかを、また制作の過程でどれだけどのように悩んだり苦労したりしたかを明記するようにしました。また自らの制作過程の中でいかに工夫したかなどをレポートの中でアピールするように指示をしました。各自が提出した5枚のレポートの提出状況とその内容、さらに普段の授業の中で記録した各自の課題に取り組む姿勢の両面から、本授業の学業成績の結果を出しました。
両時間とも、授業内で不定期に実施したミニレポートの記載内容、授業実施時の活動量、実技のため参加状況から評価しました。
出席4割，レポート提出2割，レポートの内容1割，発表1割，試験1割，授業への参加度1割
出席状況（40%）、授業態度（30%）、目標到達度（30%）で総合的に判断した。授業に対する積極性も高く、スタート時の技術レベルに差はあるが、回数を重ねるごとに技術レベルの向上も見られたため、全体的に高評価となった。
課題の達成度および課題へ取り組む態度によって評価した。
授業の性格上、出席することに大きな意味合いがあるため、出席に関する配点を高くして評価を行った。|受講生の平均出席率が９２%であったことから、全体的に高評価となった。
毎回の授業への参加・コメント（35%）、ミニレポート（15%）、最終レポート・最終報告（50%）を、総合的に評価した。
6テーマの担当教員がそれぞれの担当時について、各10点の持ち点で評価をし、最終レポートは受講生がレポートを読んでほしい教員を指定し、その教員が40点の持ち点で評価を行った。

アンケート結果を受けて改善したいところ　【創造科学系】
授業の最初に本授業のシラバスに目を通したかを質問したところ皆無であった。そこでこの授業の目標を説明したにもかかわらず理解していない受講者が存在したことには若干残念に思う次第である。一方、担当が複数であり、内容が木材加工技術と電気技術とに分かれており、この点において、受講者に惑いがあったことが予想される。 そこで、可能な限り取扱う技術を共通な内容に揃えたい。
授業の最初に本授業のシラバスに目を通したかを質問したところ皆無であった。シラバスに記したこの授業の目標を説明したにもかかわらず理解していない受講者が存在したことには若干残念に思う次第である。担当が複数であり、内容が木材等の加工技術、電気・情報技術、栽培技術に分かれていたが、この点に対して、受講者のとまどいが生じないように、ガイダンスの充実等工夫したい。
やや授業が難しいという回答も多かったので、難易度を落とすということではなく、より理解をしやすくする工夫をしていきたい。
予習できるように事前に画論のプリントを配布しているにもかかわらず予習してくる学生は3割強にとどまっている。予習してくれば講義内容への理解や意欲が高まると考えられ、この割合を高めたいが、現時点で具体策を思いつかない。
アンケートの中の問2と問15の結果をみると、受講生が、本授業を受けて自ら学習したり、本授業のために学習したりといったことが少ないということが分かったことから、今後は、この点を改善する工夫をしていきたいと思いました。
1限2限で同じ内容を扱うようにしたのですが、同じように受け止められるわけではないので、活動量や内容について気をつけたいと思います。また、分かり易さ聞き取りやすさについても、改善するように気をつけたいと思います。
話し方の改善と説明の順序と話題の選び方を更に工夫すること
スポーツを指導するうえで、学生に「伝える」、「理解させる」ことは非常に重要である。問8）教員の話し方は聞き取りやすい、問9）教員の説明はわかりやすいの設問に対し90％以上の学生がそう感じた一方、問1）授業で新しい考え方や知識・技能が身についたと感じた履修者は80％程度であった。スポーツを楽しむことに加え、「できなかったことができるようになった」と実感できる授業を展開できるよう努力を続けたい。
授業外学習を学生がより行えるように工夫したい。
すべての回答において、ポジティブな回答数が半数を超えていたが、Spスポーツの平均値と比較するとすべての設問において、ポジティブな回答率が劣る結果となった。それを受けて、「良い授業」とは何かを改めて考え、身体を動かすことが第一とする中でも、教材、教具、資料配布などによって、細やかな補足説明、問題提起を行い、自分の考えに基づき行動できるよう改善する。
「市民リテラシー」の枠で授業を行うようになってから、今年度が最も学生の反応が良かった。意見交換を多く取り入れ、学生の言葉を「待ち、聴く」よう心がけたこと、ゲスト講義を取り入れたことの効果があったと考えられる。とはいえ、「学生同士で授業内容を深めあった」「学習目標が達成できた」に「あまりそう思わない」と回答した学生が各1名、「授業が難しい」と回答した学生が1名おり、サイレント・マイノリティの意見を意識することは必要だと思う。自習時間が「1時間未満」「なし」あわせて67％と、総じて少ないことは課題である。自習課題を持ち寄ってのディスカッション形式を、もっと取り入れてもよいかもしれない。